

令和7年度 学校目標設定

令和7年5月22日

| | 視点 | 4年間の目標 (令和6年度策定) | 1年間の目標 | 取組の内容 | |
|---|----------------|---|--|--|---|
| | | | | 具体的な方策 | 評価の観点 |
| 1 | 教育課程 学習指導 | ○カリキュラムマネジメントを進め、「わかる」「できる」「伝わる」力の育成を目指す。 | ①ICTの利活用を推進し、育てたい力を明確にした授業実践・授業改善に取り組む。 | ①ICT利活用のための研修及び1人1台端末を活用した授業実践を積み重ね、児童・生徒の実態に即したICT活用指導力の向上を図る。 ②単元配列表を整備し、学習内容を分かりやすく示す。 | ①文科省調査「授業にICTを活用して指導する能力」項目の「ややできる」以上が、7割を超えることができたか。 ②単元配列表が整備され、分かりやすく示すことができたか。 |
| 2 | 児童・生徒 指導・支援 | ○児童・生徒一人ひとりの特性や教育的ニーズを的確に把握し、支援・指導を組織的に行う。 | ①関係者が専門性を發揮し、チームで多面的に児童・生徒の実態把握を行い、組織的に支援・指導を行う仕組みを整える。 | ①担任と専門職、教育相談担当で実施したアセスメント結果を、個別教育計画や日々の支援・指導に反映させる。 | ①客観的なアセスメントに基づき、実施する支援・指導の仕組みが整い、それにより、児童・生徒に変容が見られたか。 |
| 3 | 進路指導・ 支援 | ○一人ひとりの社会的自立や生活の充実をめざし、主体的な進路選択や個に応じた進路実現を支援する。 | ①自立や生活の充実に向けた自己選択・自己決定の支援を系統的に行うとともに、本人保護者と進路情報を共有し、適切な進路決定に繋げる。 | ①児童・生徒に自己表出・自己選択・自己決定の経験を豊かに積ませる。また、ニーズに応じた進路情報を提供し、共有化を図る。 | ①自己表出・自己選択・自己決定のための機会を多く作れたか。また、必要とされる進路情報の提供がなされたか。 |
| 4 | 地域等との協働 | ○地域との連携及び地域資源を活用した教育活動を積み重ね、地域に開かれた学校づくりを推進する。 ○センター的機能を充実させるとともに交流及び共同学習を進め、インクルーシブ教育を推進する。 | ①小学校や高校等との交流及び共同学習を推進するとともに、地域資源の活用等により本校への理解推進を図る。 ②センター的機能の充実を図り、インクルーシブ教育推進について理解啓発を図る。 | ①入谷小、座間高、分教室設置校等との交流及び共同学習や職員交流を積み重ねる。また、地域資源を活用した学習活動を推進する。 ②学校全体としてセンター的機能を發揮する機会を増やすとともに、切れ目ない支援部会の活動等によりインクルーシブ教育の理解啓発を図る。 | ①関係する各学校や地域との連携が深化し、お互いのことをよく知り合うことができたか。 ②アンケート等の結果をふまえセンター的機能の充実やインクルーシブ教育推進の理解啓発が図れたか。 |
| 5 | 学校管理 学校運営 | ○安心で快適な教育環境整備を進め、組織的・計画的な学校安全管理を推進する。 ○組織的な学校運営と校務の効率化を図り、児童・生徒と向き合うための時間を確保するとともに、不祥事・事故防止に努める。 | ①緊急事態に対応する訓練を充実させるとともに、児童・生徒の防災意識を高める取組を行う。 ②業務のスリム化をさらに推進し、働きやすい職場環境をつくるとともに、事故の未然防止、不祥事ゼロを達成する。 | ①各種の緊急事態を想定した訓練を積み重ねるとともに、児童・生徒による主体的な防災活動や防災教育を実施する。 ②連絡調整会議で全校視点の業務改善を学期単位で検討、推進する。Teamsの活用によるチーム内の情報共有を図る。業務アシスタントやボランティア等の活用を推進し教員の負担軽減を図る。ゆとりを生み出し事故・不祥事ゼロを達成するに繋げる。 | ①児童・生徒の実態に応じた主体的な防災活動に取り組み、防災意識を向上させることができたか。 ②組織的な業務のスリム化を積み重ねることができたか。働きやすい職場と感じている教員の割合が8割を超えることができたか。事故・不祥事ゼロを達成することができたか。 |